

# 新会員・再転入会員の声



## 新採用教員を支援して

前相馬市立中村第二小学校長  
佐藤 博

今年度の4月から再任用として、中村第二小学校に勤務しております。新採用教員の拠点校指導員として4校を兼務し、初任者の支援にあたっています。新採用教員の研修は、1年目に法定研修として義務づけられています。その内容は多岐にわたり、研究授業も年7回実施することになっています。私はもともと中学校の教員なので、校長として2回、小学校は経験しているものの、特に研究授業において様々な教科の指導を行うにあたっては、とても新鮮で、戸惑うこともあります。老体には程良い刺激になり自分自身とても勉強になります。また、4月当初の初任者の指導力が研修を重ねるごとに日々成長する姿を見て、改めて人材育成の意義も感じています。「教育は人なり」です。教育者としてスタートした初任者に恥じないよう資質向上をめざしながら、自らも自己研鑽し頑張っていきたいと思っております。



## 広島を旅して思うこと

前南相馬市立高平小学校長  
箭内 晴好

多くの方々のご支援を頂きながら、無事任務を全うすることができましたこと、御礼申し上げます。

以前から行ってみたかった広島「平和記念公園」に行くことができました。「原爆の子の像」の前では、修学旅行の小学生が学校単位で、平和への誓いを読み上げたり、千羽鶴を捧げたりしていました。「広島平和記念資料館」では緊張感が漂う中、被爆資料や遺品の展示に言葉が詰まる思いでした。一様に無言になり涙ぐみながら出てくる女子中学生の姿に心を打たれ、平和教育・防災教育等の重要性を実感しました。そして、東日本大震災当時を思い出しながら「平和記念公園」を後にしました。

4月から新学習指導要領が全面実施になります。新たな教育や伝えていかなければならないことなど山積していますが、東日本大震災の経験を基にして充実した学校経営ができるよう願っています。



## 母校で再スタートです

前相馬市立日立木小学校長  
吉内 次夫

3月に退職してから早や十ヶ月、スペシャルサポートルーム担当として、中村一中で働いています。「スペシャルサポートルーム」とは、不登校生徒や、不登校傾向生徒の居場所づくり、自己実現の支援を目的とした、校内に設置する適応指導教室で、生徒の実態に応じたきめ細かな対応をすることにより、不登校生徒、不登校傾向生徒の学習機会を確保し、将来の社会的自立を目指すという目的で、今年度から始まった事業です。

陶潜の『雑詩』「盛年の重ねて来たらず、一日再びあしたなり難し、時に及んで当に勉勵すべし、歲月人を待たず」（若いときは二度と来ない、一日に朝は二度と来ない、時を逃がさず一瞬を大切にしてお勉強に励めよ）とあります。今の仕事は、今までの経験が生かされることばかりとは限りません。日々が学習です。これからも宜しく願いいたします。



## つながり

前南相馬市立石神第一小学校長  
古田 研寿

退職してもうすぐ1年が経つ。退職してすぐは、今頃は運動会の練習かな？とか、学期末で忙しいだろうな、とか考えたものだが、1年も過ぎると、勤務していたころの時間の節目を感じる事がなくなりつつある。

さて、郡山に居を構えて5年を迎える。本来であれば、浪江で米や野菜を作り、晴耕雨読の日々を送るはずだったが残念ながらそうはいかず。

近所の皆さんともあいさつ程度の付き合いなので、できるだけ町内会の行事には参加し交流を深めようと努力している。そんな中、以前の上司の家に招待されたり、たまにゴルフの誘いを受けたりして、郡山在住の先輩や同僚と親交を深めている。

故郷を離れて生活している者にとっては大変うれしいことである。教員生活での人と人とのつながりを大切にして、これからも生活していきたい。



令和2年3月6日  
相馬地方小学校長会  
第130号  
発行責任者 鈴木 宣雄  
編集責任者 遠藤 和宏  
発行所 ライト印刷



## 防災計画を見直すにあたって

相馬市教育委員会教育長  
堀川 利夫

昨年10月の台風19号、2週間後の集中豪雨は、相馬市に甚大な被害をもたらしました。多くの市民が、今後もこのような自然災害が繰り返されるのではないかと不安を感じているようです。防災対策について、これまで以上に力を入れていく必要があるでしょう。

今回、市の災害対策会議に加わり、適切でスピーディーな判断・対応のためには、「地域のことをよく知る」ことが基本であると実感しました。

「〇〇橋が流され、〇〇地区に孤立している人がいます。」「〇〇川の左側が決壊しました。」「市道〇〇線が冠水のため通行不能。」との説明があっても、孤立した地域に児童生徒はいるのか、左側とはどこか、冠水した道路は児童生徒の通学路なのか等すぐには分からないことが多くあるのを体験し、地域のことをもっと詳しく知らなければならぬと思いました。

市町村内の細部についてくまなく知ることは、不可能かもしれません。しかし、各学校では、せめて学区内の地域名、川の名前や様子、道路名、地域の状況（ため池がある、ダムが近い、学校の海拔、過去の被害の様子等）を知っておくことは、自然災害対応として必要なことではないでしょうか。

今、管理職として配属される地域が、初めて生活する場所になる校長先生が多くなっています。校長としての的確な判断ができるようになるためにも、是非、防災に係る上記のような地域情報を知り、次年度の防災計画を見直してほしいと思っております。



## 努力は嘘をつく

南相馬市立原町第三小学校  
村田 権一

二十代から三十代にかけて、合奏部の顧問をしていたことがある。七十名ほどの子供たちと管弦楽の演奏に取り組んでいた。今になって考えれば、弦楽器の経験はほとんど無く、かろうじて合唱と金管楽器の経験がわずかにある程度の私に、大変な責任が与えられていたことに気付かされる。

一年の殆どを、子供たちと練習に明け暮れていた。夏休みは、弁当持参、学習の時間を設定する等して活動していたことが、暑い体育館の空気と伴に思い出される。練習量の多さが良い演奏、更にはコンクールでの良い結果につながると信じて疑わなかった。あるコンクールで上位大会に進めない結果が発表されたとき、自分も子供たちも保護者もみんな泣いた。その時の一人の子どもの言葉が忘れられない。「先生は努力は嘘をつかないと言ったじゃないですか。あんなに練習した私たちが、勝ち上がれないのはなぜですか。」子どものこの問いに、一言も答えることができなかった。

しかし、今ならこう答えるのではないだろうか。「悔しい結果だったが、努力したこと自体が無駄ではない。この努力が、将来必ず君たちの人生に良い影響を及ぼす。」何年か前に地区の音楽コンクールで挨拶する機会を頂いた。その時にも「努力は嘘をつく」という話をした。会場を去ろうとしたとき、一人の保護者が近づいてきて、「話を聞いて、納得しました。努力した後の行動が大切なのですね。」この一言で、何十年前に子供たちに言ってあげられなかった後悔が、少し軽くなっていくのを感じた。その保護者が、丁度その子供たちが成長した年齢に近いのも偶然でないような気がした。私たちが子供たちに努力の大切さを指導することは多いが、子供の将来を見据えた、努力の大切さを指導したいものである。

## 編集後記

学習指導要領完全実施による授業時数確保のために、さらなる行事の削減やモジュールの活用など、どの学校も創意・工夫に励んでいることと察します。また、勤務時間適正化でいかに効率的に学校運営を行うかも問われています。来年度は「令和の学校経営スタンダード」を作り上げていく創生元年としたいものです。第130号発刊にあたり、玉稿をお寄せいただいた相馬市教育長様をはじめ諸先生方に厚く御礼申し上げます。



